

定期健康診断における

有所見率改善に向けた取組の推進について

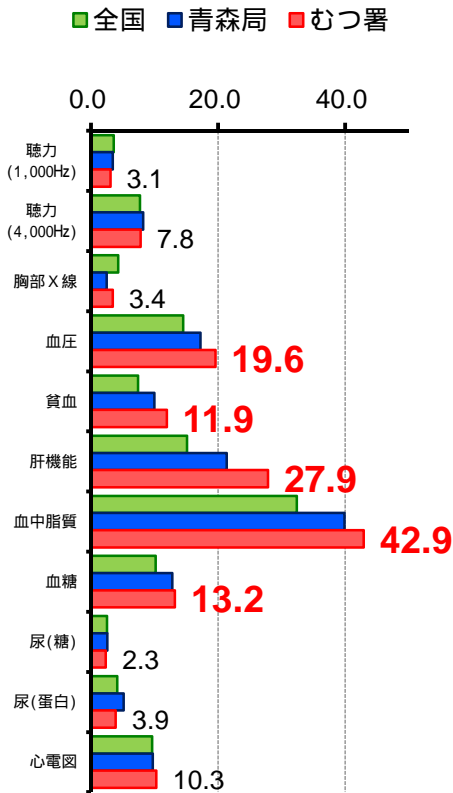


図1：「定期健康診断結果(平成24年実施分) 項目別有所見率」

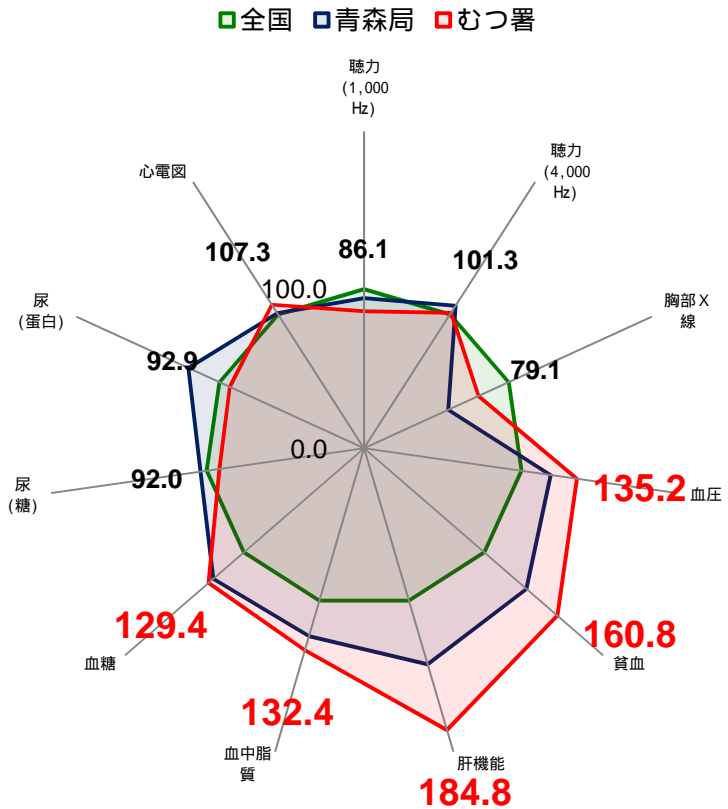


図2：「定期健康診断結果(平成24年実施分) 項目別有所見割合」

定期健康診断結果^(図1)について、各項目の全国値を「100」として当署管内の値等と比較検討^(図2)したところ、聴力(1,000 Hz)と胸部X線の項目は有所見率が低く、聴力(4,000 Hz)、尿(糖)、尿(蛋白)、心電図の項目では大きな差異は認められませんが、**「血圧」、「貧血」、「肝機能」、「血中脂質」、「血糖」**の項目では、全国値に比し、**有所見率が著しく高い**状況にあります。

また、これらの項目に関連する「脂質異常症」、「高血圧症」、「糖尿病」等の基礎疾患を有する労働者については、長時間労働等の過重な業務による負荷が加わると脳梗塞等の脳血管疾患、心筋梗塞等の心疾患を発症するおそれがあり、それらを防止するためにも有所見率の改善に向けた取り組みが非常に重要です。



健康管理 と 生活習慣

青森県は、男性の平均寿命が35年以上にわたり全国最下位¹という状況にあり、全国的にも平均寿命の短い地域です。

このように平均寿命の短い青森県の男性は、日本人の三大死因と言われているガン(悪性新生物)、心疾患、脳血管疾患の死亡率においても「ガンによる死亡率 全国1位」、「心疾患死亡率 全国1位」、「脳血管疾患死亡率 全国2位」²等という大変憂慮すべき状況にあります。

ガンの中でも死亡率の上位を占める肺ガン、胃ガン、大腸ガン(結腸ガンと直腸ガンを併せたもの。以下同じ)では、肺ガンは「喫煙」が最大の危険因子といわれ、胃ガンは原因が明らかとなっていないが「塩分」との関連があるといわれており、大腸ガンは「食物繊維不足」、「塩分の過剰摂取」、「喫煙」、「アルコールの過剰摂取」等が危険因子といわれています。

また、脳梗塞等の脳血管疾患や心筋梗塞等の心疾患では、「高血圧症」、「糖尿病」、「脂質異常症」、「肥満」、「喫煙」等が危険因子といわれています。

ちなみに、青森県は、「食塩消費量 全国2位」、「食用油消費量 全国2位」、「カップめん消費量 全国1位」、「コーヒー飲料購入金額 全国1位」、「炭酸飲料購入金額 全国1位」、「酒類購入金額 全国3位」³等という調査結果もあり、食生活で塩分や油脂分、糖分、アルコール分の過剰摂取の傾向がうかがえます。

そのほかにも、ガン及び脳・心疾患等の多くに共通する危険因子の「喫煙」にかかわる調査においても「男性の喫煙率 全国1位(女性は2位)」⁴という調査結果もあります。

各事業場においては、定期健康診断結果に異常所見が認められる労働者に対し、産業医等による面接指導、医師や保健師による栄養改善、運動等の生活習慣改善への保健指導、健康教育・健康相談の実施等、健康確保対策等の推進に積極的に取り組むようにしてください。

1 出典 「厚生労働省 : 平成22年都道府県別生命表」

2 出典 「厚生労働省 : 平成22年 都道府県別年齢調整死亡率(ADR)」

3 出典 「総務省 : 平成20~22年平均 家計調査」

(各県の消費動向は、県庁所在地をベースとしており本件も県庁所在地のデータを各都道府県のデータとして扱っています。)

4 出典 「厚生労働省 : 平成22年 国民生活基礎調査」

